

令和2年度 年間指導計画を見直す際の参考資料

小学校 第4学年 「国語（教育出版）」

171時間（7096）

週	重点に置く指導事項	単元名	教材名	時間数	留意点
四上					
1	Cイキ 知・技(1)ア 知・技(1)ク	言葉に親しもう	わたしは、だあれ 春のうた あり	2	・「わたしは、だあれ」は、状況によって導入で扱うこととし、2つの詩を場面の様子を想像しながら繰り返し音読することを中心の活動とする
2	Cイ 知・技(1)オ	一場面の様子や、登場人物の気持ちを想像しながら読もう	白いぼうし	9	・行動や会話、地の文などの描写を根拠に、登場人物の気持ちを捉えることを中心の活動とする ・松井さんになったつもりで日記を書かせる
	Bア 知・技(1)アウ 知・技(1)ウ		びつたり言葉、見つけよう	3	・例文を参考にして、「うれしかった」「悲しかった」といった直接的な言葉を使わずに、自分の気持ちに合った言葉や表現で書くことを中心の活動にする
	書写	漢字の広場① 漢字の部首	1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う	
		三年生で学んだ漢字①	-	・①②③をまとめて扱う	
3	Cア 知・技(1)カ 知・技(1)ク	二 けっかとけつろんのつながりをとらえよう	ぞうの重さを量る	2	・「考えるすじみちをつかむ」を基に、段落相互の関係に着目して読ませる
4	Cアウ 知・技(2)ア	三	花を見つける手がかり	8	・3つの実験の違いが分かるように、事実と意見を区別してまとめることを中心の活動とする
			分類をもとに本を見つけよう	3	・学校や地域の図書館の本の分類の仕方を理解させる ・学校図書館を活用して、分類記号を手がかりに読みたい本を探させる
	Aエ 知・技(2)イ	メモの取り方をくふうして聞こう	3	・大切なことを落とさないメモの取り方について理解させる	
5	知・技(2)イ	漢字辞典の引き方	2	・設問は家庭での課題とし、確認を行う	
6	Bイウ 知・技(1)オ 知・技(1)カ	三 伝わりやすい組み立てを考えて書こう	リーフレットで知らせよう	8	・伝えたい内容の中心をはっきりさせて、内容のまとまりごとに段落を作って書くことを中心の活動とする
			短歌の世界	3	・リズムを感じながら短歌を読むことを中心の活動とする
	Cエ 知・技(1)カ 知・技(1)ク	漢字の広場② 漢字の音を表す部分	1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う	
			三年生で学んだ漢字②	-	・①②③をまとめて扱う
7	Cイニ 知・技(1)イ	四 登場人物のせいかくや、気持ちを想像して読もう	ぞろぞろ（落語）	8	・我が国の伝統文化である落語に興味をもたせる ・場面の様子や登場人物の性格の違い、気持ちの変化などを音読記号を使って表現することを中心の活動とする
8	Aエ 知・技(1)ア	書写	「夏の思い出」記者になろう	1	・相手の話を引き出す質問の仕方について理解させる
			漢字の組み立て	3	・部分の組み立て方を意識させる
			平仮名の筆使い	2	・平仮名の「結び」の書き方について理解させる
9	Aイウ 知・技(1)イ	五 写真などの図のよさを知り、活用しよう	写真をもとに話そう	5	・選んだ写真から、写っているもの、動きや大きさ、撮影した角度や位置、トリミング（切り取り方）などに注目させる ・読み取った情報を整理することを中心とした活動とする
			新聞を作ろう	4	・読む人に伝わりやすい配置や文量、見出し等を考えて、新聞を作ることを中心の活動とする
	Bウエ 知・技(1)ウ 知・技(2)ア 知・技(1)ウ	漢字の広場③ 送りがなのつけ方	2	・設問は家庭での課題とし、確認を行う	
10	知・技(1)エ	三年生で学んだ漢字③	1	・本時で①②③をまとめて扱う	
11	Cエオ 知・技(1)オ 知・技(2)ア	六 場面の様子をくらべて読み、感想をまとめよう	一つの花	8	・叙述を基に、場面の移り変わりや登場人物の変化とを結びつけて、登場人物の気持ちを具体的に想像することを中心の活動とする。
			いろいろな手紙を書こう	2	・共通の相手や目的で手紙を書くこととし、構成と記述を中心に指導する ・電子メールの書き方にも触れる
	Bエ 知・技(1)カ 知・技(1)カ	修飾語	2	・修飾語の働きについて理解させる (参考：県教委オンラインサポート授業)	
12	Bア 知・技(1)ウ 知・技(1)ウ	七 自由に想像を広げて書こう	「ショートショート」を書こう	5	・不思議な言葉から想像を広げて書くことを中心の活動とする
			「月」のつく言葉	1	・国語辞典を使っていろいろな言葉に触れ、語彙を増やしていく
	書写	文字の大きさと配列	2	・漢字とかなの大きさ、配列（行の中心と字間）、漢字同士の大きさを意識させる	

四下					
13	Cエオ 知・技(1)オ 知・技(2)ア	一 場面のうつり変わり結びつけ、登場人物の変化を読む	ごんぎつね	7	・登場人物の心情の変化を、場面の移り変わりと結びつけて読み取ることを中心の活動とする
	Cカ 知・技(2)イ		「読書発表会」をしよう	4	・ブックトークの方法を理解させ、一冊からテーマを広げさせる ・学校図書館を活用し、テーマと関連のある本を選び、紹介することを中心の活動とする(参考:県教委オンラインサポート授業)
	Aイ 知・技(1)ア		言葉が表す感じ、言葉から受ける感じ	3	・言葉や表現が相手に与える感じ方を考えさせる
14	Aオ 知・技(2)ア 知・技(1)エ	二 目的や進め方をたしかめて話し合おう	新スポーツを考えよう	6	・司会、提案者、発言者等の役割や進行の流れを理解させ、目的や進め方を確かめて話し合う方法を中心に指導する
			漢字の広場④ いろいろな意味を表す漢字	2	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
			三年生で学んだ漢字④	-	・④⑤⑥をまとめて扱う
15	書写		書きぞめ	2	・書き上げた作品は、観点を定めて、互いの作品を評価し合う時間をとる
	Cウオ 知・技(2)ア 知・技(1)カ	三 大事な言葉や文に気をつけて要約しよう	ウミガメの命をつなぐ	7	・大事な言葉や文に気をつけて要約し、興味をもったことをまとめることを中心の活動とする
16			二つのことがらをつなぐ	1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
	Bウオ 知・技(2)イ 知・技(3)ア	四 調べたことをわかりやすく書こう	「不思議ずかん」を作ろう	5	・写真や図を効果的に使って、図鑑を作ることを中心の活動とする ・グループで発表し合い、自分の作品のよいところを見つける交流を行う
17	Cカ 知・技(1)ク 知・技(1)エ		故事成語	3	・故事成語の意味を理解し、今でも使われている故事成語を調べることを中心の活動とする
			◆詩を楽しもう いろいろな詩/おおきな木/ とびばこ だんだん	2	・気に入った詩を選び、表現の特徴に着目して朗読することを中心の活動とする
			漢字の広場⑤ 熟語の書き方 三年生で学んだ漢字⑤	1 -	・設問は家庭での課題とし、確認を行う ・④⑤⑥をまとめて扱う
18	Aア 知・技(2)ア 知・技(2)イ	五 自分の経験と結びつけて考えよう	身のまわりの「便利」なものを考えよう	1	・誰のために、どんな工夫があるのかを話し合わせる
			「便利」ということ	5	・「便利」と「不便」について、いろいろな立場から整理させ、「便利」ということの筆者の考えをまとめることを中心の活動とする
	Aウ 知・技(2)イ 知・技(1)ウオ		調べてわかったことを発表しよう	7	・言葉の強弱や問の取り方、図などの資料の指し示し方に注意して、調べたことを話すことを中心の活動とする
19			点(、)を打つところ	1	・普段の自分のノートを振り返らせる
	書写		まとめ	3	・4年生のまとめとして、学習したことを生かした作品が書けるように指導する
20	B 知・技(1)ウカ 知・技(2)イ	六 伝えたいことをはっきりさせて書こう	自分の成長をふり返って	6	・1年間の「書くこと」のまとめとし、児童の実態に合わせて、補強が必要と思われる指導事項に重点を置いて指導する
	Bウ 知・技(2)イ 知・技(1)ウ 知・技(1)エ		雪	1	・詩歌の中から雪に関わる言葉を探し、語彙を増やしていくことを中心の活動とする
			漢字の広場⑥ 同じ読み方の漢字の使い分け 三年生で学んだ漢字⑥	1 1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う ・本時で④⑤⑥をまとめて扱う
21	C 知・技(1)イ 知・技(1)イ	七 場面のうつり変わりと、登場人物の気持ちの変化を読む	木竜うるし(人形げき)	6	・1年間の「読むこと」のまとめとし、児童の実態に合わせて、補強が必要と思われる指導事項に重点を置いて指導する
	Aウ 知・技(1)イ		国語の学習 これまで これから	2	・1年間のまとめとして、何を学んだのかを振り返らせる

## ※時間数の精選方法(例)

### ○3領域のどの指導事項に重点を置くのかを明確にする。

・複数の指導事項を万遍なく指導するのではなく、この教材では、どのような力(指導事項)を身につけさせるのかを明確にすることで、授業時間の削減が可能となります。例えば、教材「リーフレットで調べよう」では、指導事項イの「文章全体の構成や展開を考えること」を中心に指導し、教材「不思議ずかんを作ろう」では、指導事項オの「お互いの文章のよいところを見付けること」を中心に指導を行います。「読むこと」、「話すこと・聞くこと」も同様です。

### ○家庭での課題として取り組ませることで、学習を補う

・言葉に関する学習に出てくる設問などは家庭での課題として取り組ませ、後日、確認を行います。「漢字の広場」については既習内容であるので、同じく家庭での課題として取り組ませたり、①②③、④⑤をそれぞれ1時間としてまとめて扱ったりします。

### ○読書単元は学校図書館を活用し、言語活動と結びつけ、読書生活を豊かにする

・読書教材については、指導事項が【知識及び技能】(3)「我が国の言語文化に関する事項 オ」になりますので、詳細な読みは行わないのが一般的です。読書と言語活動を結びつけ、3領域の資質・能力を向上させるのが望ましいとされます。教材「分類をもとに本を見つけよう」「読書発表会をしよう」の学習から、学校図書館や地域の施設を活用し、家庭での読書につなげることも可能です。

### ○書写は取り立てた指導だけではなく、「書くこと」と関連させた指導も行う

・書写の指導に関しては、小学校4学年では年間30時間程度行うものとありますが、教育出版では、手紙を書いたり、リーフレットを作成したりする「書くこと」の領域の学習において、例えば便箋や封筒の書き方、リーフレットのページの割り付けで、文字の大きさや配置配列といった指導事項をおさえることが可能です。(本資料では、書写に取り立てた指導を15時間(50%)で作成しています)

### ○感染症予防対策を踏まえた学習活動の工夫を行う

・教材文等の音読は、マスクをつけることや大きな声を出さないことを指示します。ペアや少人数での話し合い活動も、マスクや声の大きさなどを配慮して行いますが、教室の状況や児童の実態によっては当分の間控えた方がよいでしょう。また、スピーチやプレゼンテーションなど、相手に向けて話す活動は、一定の距離をとって行います。インタビューなどのフィールドワークは、書くことの「情報の収集」と関連させるなど、単元の組み替えを行います。